

第20回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時 1997年3月25日（火）10：30～

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 田畑委員、藤家委員、依田委員
日本原子力研究所 伊達先端基礎研究センター長
（事務局等）池本専門委員
國谷研究技術課長
研究技術課 佐藤
日本原子力研究所 高木、藤井
原子力調査室 松尾、杉本、新井

4. 議 題

- （1）原研における先端基礎研究の現状について
- （2）その他

5. 配布資料

- 資料1 第19回原子力委員会臨時会議議事録（案）
- 資料2 原研における先端基礎研究の現状

6. 審議事項

- （1）議事録の確認

事務局作成の資料1第19回原子力委員会臨時会議議事録（案）が了承された。

- （2）原研における先端基礎研究の現状について

標記の件について、日本原子力研究所 伊達先端基礎研究センター長より資料2に基づき、基礎原子科学、重元素科学、放射場科学の三分野における研究、超臨界CO₂を用いたウラン分離、世界最短パルスレーザーの開発、リゾチームタンパク全構造の決定等の研究成果について報告があった。

これに対し、委員より、

- ・ 科学技術は本来サイエンスに先導されるべきであるが、原子力の分野においては、現実的なニーズ、すなわちテクノロジーが先導してきている。本来の姿とすることに向け、このセンターの役割に期待している。その際、全体的な視野で長期的な展望を持つことが必要
- ・ 日本の原子力技術は海外の技術に負うところが大きかった。長期的観点からオ

リジナリティのあるものを目指すには、基礎研究から基盤研究への積み重ねが重要

- ・ 今後の方向性を考える上で、エネルギー、物質、技術、情報の4つが大きな柱となる
- ・ 科研費による交流を含め、他機関との連携を図っていくことが重要
- ・ 原子力技術など巨大技術になったものでは、研究が個人ベースから組織ベースに移っている。このような流れの中で、研究の進め方がどう変化してきているかを整理した上で、基礎研究全体の今後の進め方を考えることが必要ではないか

等の意見があった。